

授業科目名	家族社会学	担当教員名	池本 紗良							
コード	22HUM117	区分 (必修・選択)	必修							
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義							
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】									
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。									
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。									
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。									
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。									
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。									
【授業の概要】										
本講義では、家族社会学の基礎的な概念や理論をふまえながら、現代社会における家族の諸相について学ぶ。具体的には、社会変動が家族に及ぼす影響や個人のライフスタイルと家族という集団の関連、家族関係と職業・労働の問題、さらには、近年大きな社会的課題となっているケアと家族についてなど、家族にまつわる様々なトピックスを扱う。本講義を通して、社会的に家族をみること、すなわち家族を相対化してみることができるようになることを期待する。										
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						ディプロマ・ポリシー				
						①	②	③	④	⑤
1 家族の成立・変動過程を理解し、現代家族が抱える諸問題について説明できる。						○		○		
2 医療・看護の社会的意味・意義について説明できる。								○		
3 課題解決にむけて論理的かつ積極的に参画できる。								○		○
【授業計画】										
	授業計画			授業外学修(予習・復習・課題等)						
1	「家族」とは何か ・家族の定義、家族・親族・世帯 ・家族の多様なかたち			予習(60分):テキストのなかで関心のある章を読み、家族の定義について考える。 課題(60分):自身の親族ユニバースを図示しておく。						
2	近代家族の誕生 ・家族をとらえる基本概念 ・伝統家族から近代家族へ			予習(60分):テキスト第1章を読み、家族変動について理解する。 課題(60分):伝統家族と近代家族の違いについて説明できるよう復習する。						
3	恋愛と結婚(1) ・未婚化・晩婚化 ・ロマンティックラブイデオロギー			予習(60分):テキスト第2章を読み、感想や疑問点を書いておく。 課題(60分):ロマンティックラブイデオロギーの成立と今後の展望について説明できるよう復習する。						
4	恋愛と結婚(2) ・離婚と再婚の動向 ・ステップファミリー			予習(60分):テキスト第6章を読み、感想や疑問点を書いておく。 課題(60分):離婚を経験した子どもたちの適応課題と中長期的影響を検討し、復習する。						
5	出産・子育て(1) ・出生率の動向:少子化 ・子育て環境の現在			予習(60分):テキスト第3章を読み、感想や疑問点を書いておく。 課題(60分):現在の日本社会における子育て問題を考える。						
6	子ども・若者と家族 ・現代日本における家庭教育 ・社会階層と教育			予習(60分):教育格差について調べておく。 課題(60分):なぜ教育格差が生じるのか、説明できるようにする。						
7	仕事と家族 ・女性活躍とはなにか ・ワークライフバランス			予習(60分):テキスト第7章を読み、感想や疑問点を書いておく。 課題(60分):女性の職業キャリア、「M字型就労」について説明できるよう復習する。						
8	介護と家族 ・家族介護の現状 ・介護の社会化、再家族化			予習(60分):テキスト第4章を読み、感想や疑問点を書いておく。 課題(60分):医療・看護職として、家族介護問題の解決にむけてどのようにかかわることができるか考える。						
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫						
①:PBL(課題解決型学習)			○							
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○							
③:ディスカッション・ディベート			○							
④:グループワーク										
⑤:プレゼンテーション										
⑥:実習・フィールドワーク										
【課題のフィードバック】										
・課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。 ・フィードバックとして、小テスト(課題)を回収後、解答の解説を行う。										
【成績の評価方法】										
・「授業参加度:30%」、「期末レポート:70%」とする。 ・「授業参加度」はリアクションペーパーに基づいて評価する。 ・「期末レポート」は提示した条件をすべて満たしていることを前提に、内容を評価する。評価基準は、「適切な課題設定」、「既存の学説・知見を踏まえている」、「論拠および論述が妥当かつ明確である」とする。										
【履修申請上の条件】										
特になし										
【教科書】										
特になし										
【参考書】										
『入門家族社会学』(永田夏来・松木洋人編、新泉社、2017年) 『よくわかる家族社会学』(西野理子・米村千代編、ミネルヴァ書房、2019年) 『現代家族を読み解く12章』(日本家政学会編、丸善出版、2018年)										
【オープンな教育リソース】										
特になし。										
【担当教員の実務経験】										
特になし										
【オフィスアワー】										
メールにて連絡すること。										
【教員連絡先】										
sikemoto@g.t-junshin.ac.jp										
【備考】										
特になし										

授業科目名	看護情報学	担当教員名	高柳 良太
コード	22NBA123	区分 (必修・選択)	選択
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】		
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。		
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。		
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。		
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。		
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。		
【授業の概要】			
看護の現場でさまざまに用いられている看護用語やカルテ用語について、看護情報のIT化を踏まえて、どのように用語の体系化がされ、扱われているのか理解する。また、医療者の共通言語としての医療・看護用語の活用方法や利用上の問題について、プライバシーの概念、情報の共有、セキュリティ、守秘義務、個人情報の保護、情報の開示などの観点から学び、看護情報の取り扱い方を理解する。合わせて、医療者として情報を活用する観点から、著作権法や個人情報保護法等の関連法規についても必要部分を学び、情報利用に関しての法令遵守の考え方も合わせて学ぶ。			
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】			
			ディプロマ・ポリシー
			① ② ③ ④ ⑤
1 データ・情報・知識およびそれらの関係が概念化できる。			○ ○ ○ ○ ○
2 データ・情報・知識の観点から看護のさまざまな局面について論じることができる。			○ ○ ○ ○ ○
3 医療情報システムの概要を知り、情報を取り扱う上での留意点を説明できる。			○ ○ ○ ○ ○
4 関連する各種の法律・権利関係について理解し、説明することができる			○ ○ ○ ○ ○
【授業計画】			
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)	
1	授業内容説明 科目概要/評価方法 看護情報学とは	予習(30分): 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分): 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること 課題(120分): 授業中に課題される課題に取り組み提出すること	
2	看護情報学 データ・情報・知識・形式知・暗黙知	予習(30分): 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分): 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること。 また、返却された課題について、不備がある場合は各自調べる、または教員に質問するなどして疑問点を解消しておくこと。 課題(120分): 授業中に課題される課題に取り組み提出すること	
3	看護情報学 用語の標準化 情報セキュリティ	予習(30分): 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分): 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること。 また、返却された課題について、不備がある場合は各自調べる、または教員に質問するなどして疑問点を解消しておくこと。 課題(120分): 授業中に課題される課題に取り組み提出すること	
4	看護情報学 個人情報保護法をはじめとする関連法規と医療・看護	予習(30分): 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分): 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること。 また、返却された課題について、不備がある場合は各自調べる、または教員に質問するなどして疑問点を解消しておくこと。 課題(180分): 授業中に課題される中間課題に取り組み提出すること	
5	医療情報システムについて 1	予習(30分): 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分): 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること。 また、返却された課題について、不備がある場合は各自調べる、または教員に質問するなどして疑問点を解消しておくこと。 課題(120分): 授業中に課題される課題に取り組み提出すること	
6	医療情報システムについて 2	予習(30分): 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分): 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること。 また、返却された課題について、不備がある場合は各自調べる、または教員に質問するなどして疑問点を解消しておくこと。 課題(120分): 授業中に課題される課題に取り組み提出すること	
7	医療情報システムと看護	予習(30分): 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分): 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること。 また、返却された課題について、不備がある場合は各自調べる、または教員に質問するなどして疑問点を解消しておくこと。 課題(120分): 授業中に課題される課題に取り組み提出すること	
8	医療情報と倫理	予習(30分): 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分): 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること。 また、返却された課題について、不備がある場合は各自調べる、または教員に質問するなどして疑問点を解消しておくこと。 課題(180分): 最終課題に取り組み提出すること	

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
原則提出締め切り後の講義時の最初に解説を行う。		
【成績の評価方法】		
<p><評価基準></p> <p>講義を元に出題される評価レポート課題においては、以下の各内容を評価基準とする。</p> <p>「情報やデータの意味、特徴および医療におけるそれらの特徴を論述し説明できる」</p> <p>「医療・看護における情報システムについて、その成り立ちやシステムの特徴、セキュリティ上重視すべきことが具体的に論述し説明できる」</p> <p>「情報倫理、及び関連する法規の内容について具体的に論述し説明できる」</p> <p><割合></p> <p>授業内課題(数回)50%、最終レポート課題50%で、総計60%以上を単位認定の条件とする。</p>		
【履修申請上の条件】		
特になし		
【教科書】		
講義中に教員が資料を配付		
【参考書】		
<p>エッセンシャル看護情報学 第2版 太田勝正,前田樹海 医歯薬出版 ISBN978-4-263-23586-7</p> <p>《系統看護学講座 別巻》看護情報学(第2版) 中山和弘,瀬戸山陽子,藤井徹也,篠崎恵美子,会田敬志,高木晴良,戸ヶ里泰典 医学書院 ISBN978-4-260-02771-7</p>		
【オープンな教育リソース】		
特になし		
【担当教員の実務経験】		
業務用システム開発担当システムエンジニア(5年)		
【オフィスアワー】		
講義後1時間程度(火曜日) 随時メール等にて連絡は可能		
【教員連絡先】		
rtakavanagi@gt-junshin.ac.jp		
【備考】		
課題、資料についてはGoogleクラスルームにてダウンロード可能		

授業科目名	国際看護学	担当教員名	上條 優子	
コード	19NAD405	区分 (必修・選択)	選択	
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義	
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】			
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。			
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。			
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。			
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。			
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。			
【授業の概要】				
国際的な視野から、わが国や世界の地域での健康課題を理解し、国際看護学の理論と実際を学ぶ。感染症、子ども・女性の健康課題、戦争や災害における国際救護、国際援助について学び、日本の国際社会における役割を理解する。世界には様々な国籍、文化、宗教があり、人々の持つ多様な背景を理解し、お互い人間として認め合い、関係を築きながら、看護専門職者としての役割を發揮していくための国際感覚を磨く。さらに、国際機関の役割、国際保健政策、国際看護活動について理解し、看護の国際協力の実際や日本における多文化共生と保健・看護の役割について考察する。				
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】				
		ディプロマ・ポリシー		
		①	②	③
1	国際看護の実践に必要な基本的知識を述べるができる。	○		
2	国や地域、文化や人種などの違いを超えた「看護」について説明できる。	○		○
3	国際看護に関心を持ち看護専門職としての取り組みについて自己の考えを表現できる。	○		
【授業計画】				
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)		
1	国際看護学を学ぶことの意義 世界の健康問題 国際看護の主要概念	予習(60分):テキストを購入し第1章、第2章、第3章を読む 復習(30分):リフレクションペーパーに学んだことを記載し次回の授業前に提出する		
2	先進国の看護(米国)	予習(60分):日本の死因と世界の死因を比較しまとめたものを次回の授業前に提出する (A4用紙1枚程度) 復習(30分):リフレクションペーパーに学んだことを記載し次回の授業前に提出する		
3	異文化理解と、開発途上国の現状 開発途上国の保健・医療システムと看護の国際協力 - その1- ゲストスピーカー:JICAで国際協力に参加したことのある看護師	予習(30分):テキスト第6章、第7章、第8章、第15章を読む 復習(30分):リフレクションペーパーに学んだことを記載し次回の授業前に提出する		
4	異文化理解と、開発途上国の現状 開発途上国の保健・医療システムと看護の国際協力 - その2- ゲストスピーカー:JICAで国際協力に参加したことのある看護師	課題(60分):実際の国際協力体験を学び、考えたことを記載し次回の授業前に提出する (A4用紙1枚程度) 復習(30分):リフレクションペーパーに学んだことを記載し次回の授業前に提出する		
5	国際協力諸機関と協力のしくみ 感染症対策 多文化共生看護 在留外国人の健康課題と看護 (ディスカッションを含む)	予習(60分):第4章、第5章、第9章、第10章、第11章を読む 復習(30分):リフレクションペーパーに学んだことを記載し次回の授業前に提出する		
6	プレゼンテーション準備(グループワーク:インターネット等のICTを活用しプレゼンテーション準備を行う)	予習(30分):私たちにできる国際看護活動について個人で考えてくる 宿題(60分):グループで話し合い、私たちにできる国際看護活動について発表資料を作成する		
7	私たちにできる国際看護活動とは(プレゼンテーション)	事前課題(90分):グループで話し合い、私たちにできる国際看護活動について発表資料を作成する		
8	私たちにできる国際看護活動とは(プレゼンテーション)	事前課題(90分):グループで話し合い、私たちにできる国際看護活動について発表資料を作成する 復習(30分):授業内容をまとめておく		
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫	
①:PBL(課題解決型学習)				
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)				
③:ディスカッション・ディベート		○		
④:グループワーク		○		
⑤:プレゼンテーション		○		
⑥:実習・フィールドワーク				
【課題のフィードバック】				
課題レポートやリフレクションペーパーのフィードバックは、提出した講義の次の講義時に行う。				
【成績の評価方法】				
課題提出:20% リフレクションペーパー提出:20% グループワーク:20% プレゼンテーション(事前課題含む):40%				
1.2つの課題を「課題提出」として評価する。評価の内訳はテーマと合っているかを基準とし、分量・内容の総合評価とする。				
2.4回のリフレクションペーパー提出を評価する。評価は授業の復習ができていくかどうかを基準とする。				
3.プレゼンテーションは、学生同士の評価表を用いた評価と内容を総合的に評価する。				
4.プレゼンテーション準備のグループワークの貢献度を総合的に評価する。				
【履修申請上の条件】				
1. ICTを使った検索ができること 2. PCのパワーポイントが使えること				
【教科書】				
国際看護学 看護の統合と実践 開発途上国への看護実践を踏まえて、柳沢理子編著 PILAR Press, 2017.				

【参考書】 いのち・開発・NGO. デイヴィット・ワーナー, デイヴィット・サンダース著, 池住義憲, 若井晋監訳. 新評論. 2001 異文化看護データベース. http://jans.umin.ac.jp/iinkai/intl/index02.html 日本看護科学学会 国際保健協力市民の会. http://share.or.jp NPO法人 シェア (SHARE)
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 海外経験および看護師の経験を活用した講義を行う
【オフィスアワー】 事務室学務課を通して連絡してください。
【教員連絡先】 事務室学務課を通して連絡してください。
【備考】 特になし

授業科目名	災害看護学	担当教員名	山本 君子・山下 将志・神保 大士・松石 雄飛
コード	19NAD406	区分 (必修・選択)	必修
年次/期間	4年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】		
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。		
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。		
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。		
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。		
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。		

【授業の概要】

災害時の医療・看護活動の歴史的背景をふまえ基盤となる法的根拠、災害対策及び災害時の救護活動に必要な基本的知識と方法を学修する。また、刻々と変化する状況下で看護職が果たす役割、医療チームにおける他職種との連携・協働のあり方について考える。災害直後・初期に発生する被災者の健康・生活上の問題、被災者にもたらす中・長期的な身体的、心理的、社会的な影響など、災害が人々の健康と生活へ及ぼす影響について理解を深め、災害時における看護の特徴、人間関係づくり、環境調整などを含めた看護の提供方法について学ぶ。

日本を含め、世界各地で災害が頻発する中、看護職としてどのように考え行動・支援することが必要なのか、また防災の備えとして学生自身の体験や地域の防災対策などについて、日頃から関心を高め、今後の災害看護のあり方について考察する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 災害医療・災害看護の歴史的変遷の概要を説明できる		○			
2 災害の種類、疾病構造および災害サイクルにおける各フェーズの特徴について説明できる。		○			
3 災害に関する社会の対応や仕組みについて説明できる。		○			
4 災害サイクルに応じた看護の役割と看護活動について説明できる。		○		○	
5 災害発生時の初期行動、トリアージの原則と方法について説明できる。		○		○	
6 被災者および救護者の災害によるストレスとその対処法について説明できる。		○		○	
7 災害に備え看護専門職としての取り組みについて自己の考えを表現できる。		○		○	

【授業計画】	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)
1回 10月3日 (月) 3限	コースガイダンス (山本) 災害医療活動、災害看護の概要 (山下) 1. 災害・災害看護の歴史的歩みと今日の課題 2. 災害看護の基礎 災害とは・災害の種類と疾病構造・災害サイクル・災害関連死とは 避難行動要支援者への支援 * 災害救助・避難所の現場、DMATの活動場面などの動画や写真等を視聴する。	予習:(90分) ①テキストのp4-46,p56-94を熟読しノートに整理する。わからない語句は調べ整理する。 ②過去に発生した災害の被害、被災者の生活や健康状態について、テキストやインターネット、新聞等で知識を得ておく。 ③災害時に活躍する組織(災害拠点病院、DMAT、DPAT等)について整理しておく。 復習:(60分) ①授業内容を振り返り、整理する。 ②災害の定義、種類、疾病構造、災害サイクル、災害関連死等のキーワードを整理する。
2回 10月3日 (月) 4限	災害発生時の社会の対応やしきみ (山下) 1. 災害に関する法制度 2. 災害情報と伝達のしきみ 3. 災害関係各機関の支援体制	予習:(60分) ①テキストを熟読しノートに整理する。わからない語句は調べ整理する。 復習:(60分) ①授業内容を振り返り、整理する。
3回 10月17日 (月) 3限	災害各期における看護活動 (山下) 1. 災害サイクル各期における看護活動 2. 在宅療養・避難所・応急仮設住宅・災害公営住宅(災害復興住宅)における看護活動 3. 避難生活の課題とその対策:避難所や車中避難における健康、生活上の課題とその対策など *DMAT活動場面の動画、写真等を視聴する。	予習:(90分) ①テキストのp118-149を熟読しノートに整理する。わからない語句は調べ整理する。 ②避難生活の現状や課題についての情報を、テキストやインターネット、新聞等で収集しておく。 復習:(60分) ①授業内容を振り返り、整理する。 ②災害サイクルに応じた各期の看護について整理しておく。
4回 10月17日 (月) 4限	病院における災害看護 ~災害発生時、看護師の情報・判断・行動は?~ (山下) 1. 病院における災害の備え 2. 災害発生時の病院における災害時の初動体制 3. 災害訓練	予習:(60分) ①テキストのp174-189を熟読しノートに整理する。わからない語句は調べ整理する。 復習:(60分) ①授業内容を振り返り、整理する。
5回 10月24日 (月) 3限	災害発生時に必要な技術(机上演習)(山下) 1. 災害時の医療救護活動の基本:CSCATTT 2. 災害時のトリアージ:一次(START法)・二次 3. 災害時の治療・搬送	予習:(90分) ①テキストのp152-172を熟読しノートに整理する。わからない語句は調べ整理する。 復習:(60分) ①授業内容を振り返り、整理する。
6回 10月24日 (月) 4限	災害とこころのケア (松石) 1. 被災者のストレスと心のケア 2. 援助者のストレスと心のケア	予習:(60分) ①テキストのp104-149を熟読しノートに整理する。わからない語句は調べ整理する。 復習:(60分) ①授業内容を振り返り、整理する。 ②急性ストレス障害、PTSD、こころのトリアージ、こころのケア等のキーワードについて整理する。
7回 10月31日 (月) 3限	災害看護における倫理原則の考え方 (神保) 1. 災害看護における倫理原則の基本的な考え方 2. 災害看護に期待される能力 3. 災害看護の理論の活用	予習:(60分) ①テキストのp192-209、95-102を熟読しノートに整理する。 ②わからない語句は調べ整理する。 復習:(60分) ①授業内容を振り返り、整理する。 ②倫理原則について整理する。
8回 10月31日 (月) 4限	災害看護学の授業①~⑦回まとめ(山下・神保) 定期試験・課題について説明(山本)	予習(60分) ①~⑦回の授業を振り返り、質問事項などがあればまとめておく。 ⑧回目の授業のまとめの時間に質問できるようにする。 復習(90分) ★レポート課題「災害に備え、看護専門職として求められる姿勢と取り組みについて」 A-4用紙、MS-明朝体、800~1000字程度のレポート作成。 ★提出期限:2022年11月7日(月)~11月14日(月)17:00までに学務課横のポストに入れる。

【アクティブラーニング】	復習	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	トリアージの机上演習 DVD
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

・フィードバックは、講義の中でおこなう。

<p>【成績の評価方法】</p> <p>筆記試験(70%)、机上演習への取り組み及びレポート(30%)により、総合的に評価する。</p> <p>【筆記試験】:災害の種類、フェーズ、関係法規等に関する基本的知識、災害医療活動と看護の知識に関すること、災害発生時の対応技術の知識に関することを問う。</p> <p>【レポート評価基準(ルーブリック)】:①課題に沿ったタイトルが設定されている、②内容に一貫性があり、論理的にわかりやすく表現されている、③設定した問題の背景を説明している(体験に基づいた内容である)、④考察が文献の引用等により深められている、⑤文章の体裁・表現は適切である(段落、句読点、主部と述部、文体、誤字・脱字、指定様式等)、の5項目について評価する。提出期日を厳守すること。提出遅延時は減点対象とする。なお、剽窃行為は禁止されているので注意すること。</p> <p>【机上演習評価】:災害看護に必要な技術机上演習への取り組み姿勢・意欲、協調性を踏まえ、総合的に評価する。</p>
<p>【履修申請上の条件】</p> <p>特になし。</p>
<p>【教科書】</p> <p>・酒井明子, 菊池志津子編集, 災害看護学 看護の専門知識を統合して実践につなげる, 改訂第3版, 南江堂, 2020.</p>
<p>【参考書】</p> <p>・浦田喜久子, 小原真理子, 看護の統合と実践(3) 災害看護学・国際看護学(系統看護学講座 統合分野), 医学書院, 2015.</p> <p>・酒井明子編集, 災害看護(ナーシング・グラフィカー看護の統合と実践(3)), 第4版, メディカ出版, 2016.</p> <p>・山崎達枝著・監修, : 災害現場でのトリアージと応急処置, 日本看護協会出版会, 2013.</p> <p>・小原 真理子, 酒井 明子共著, 災害看護学, 心得ておきたい基本的な知識, 第2版, 南山堂, 2012.</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>災害医療・看護活動の経験があり、DMATとして専門的な教育を受けた私立大学病院勤務の看護師として臨床経験がある教員により、災害医療活動・災害看護活動について講義する。なお、病院勤務の看護師は集中ケア、救急看護の認定看護師である。</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>火 12:00～13:00</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>k_yamamoto@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>・DMATとして被災地に派遣され、災害救護活動を実際に行った医療チームの講師による講義・机上演習を予定している。</p> <p>・災害が多発する今日、テレビやインターネット等を通して、被災者の避難行動、被害状況、避難生活、災害医療・災害看護活動について情報を得、災害看護のあり方を考える機会としたい。また、看護専門職として災害に備えどのような準備を行っておくのか、今後のあり方について自己の考えを表現できることを期待する。</p>

看護学部

授業科目名	看護行政と看護の展望	担当教員名	高橋恵			
コード	22NAD407	区分 (必修・選択)	選択必修			
年次/期間	4年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
変動する社会のニーズに適した質の高い看護を提供するために、歴史的・制度的観点から踏まえ、看護行政・政策活動の意義と役割を学ぶ。看護行政・政策とは何かを理解し、看護を実践する上で、看護行政・政策について学ぶことの重要性を理解する。また、我が国のこれまでの看護人材育成政策及び看護人材確保政策の経緯を学び、看護人材確保における現状と課題について理解する。変動する社会のニーズに適した質の高い看護を提供するうえでの政策的課題を発見し、考察する。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
		ディプロマ・ポリシー				
		①	②	③	④	⑤
1	変動する社会のニーズと医療・看護への期待の変化について説明できる				○	○
2	看護活動の根拠となる法律とその内容を、看護師の実践内容と関連付けて説明できる。				○	○
3	看護に関わる政策・制度について、看護実践内容と関連付けて説明できる。				○	○
4	看護に関わる制度がつくられる仕組みについて説明できる。				○	○
5	政策に関与している組織、学術団体とその働きについて説明できる。				○	○
6	看護を実践する上で看護行政・政策について学ぶことの重要性について説明できる。				○	○
7	看護に関わる政策的課題と変革の時代に生きる看護の展望について考察できる。				○	○
【授業計画】						
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	1. コースガイダンス 2. 変動する社会のニーズと看護の役割 1) 医療・看護を取り巻く環境の変化 : 諸外国との比較から 2) 医療・看護への期待と役割	予習: テキスト第1章(P12~25看護管理で学習している箇所)を読んで再学習しておくこと。(60分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること (60分)				
2	3. 看護管理に関連する法律 1) 日本国憲法 2) 医療法 ① 医療法とは ② 医療法の目的 ③ 医療の基本理念	予習: (1) テキスト第8章(P198~198)を読んで整理しておくこと。 (2) 日本国憲法・医療法について調べておくこと。(90分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。(60分)				
3	3. 看護管理に関連する法律 3) 保健師助産師看護師法 4) 看護に関連(関与)する法律 ① 医師法 ② 薬剤師法 5) 看護師等の人材確保の促進に関する法律	予習: (1) テキスト第8章(P200~P204)を読んで整理しておくこと。 (2) 医師法・薬剤師法について調べておくこと。(60分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。(60分)				
4	4. 保健医療福祉政策と最近の動向 1) 社会保障制度改革の背景 2) 政策・制度と看護サービス ① 政策とは ② 政策形成と過程 ③ 我が国における医療制度のしくみ 3) 社会保障・税一体改革	予習: (1) テキスト第8章(P205~207)を読んで整理しておくこと。 (2) 厚生労働省について調べておくこと。(60分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。(60分)				
5	4. 保健医療福祉政策と最近の動向 4) 医療政策・介護政策とその経緯・医療制度改革の経緯 5) 健康政策 6) 看護政策と診療報酬 ① 看護政策とは ② 看護における診療報酬の評価: 看護配置・看護サービスの評価 ③ 診療報酬による政策誘導	予習: (1) テキスト第8章(P207~211)を読んで整理しておくこと。 (2) 診療報酬について調べておくこと。(60分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。(60分)				
6	4. 保健医療福祉政策と最近の動向 7) 看護職員の量の確保と質の向上 ① 看護職員の需給の見通し ② 看護職員の復職支援の強化 ③ 特定行為に係る看護師の研修制度の導入 ④ 看護基礎教育に関する動向 レポート課題提示	予習: (1) テキスト第8章(P211~215)を読んで整理しておくこと。 (2) 全国看護職員数について調べておくこと。(60分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。(60分)				
7	5. 看護と専門機関・職能団体 1) 世界保健機関(WHO) 2) 国際看護師教会(ICN)/国際助産師連盟(ICM) 3) 日本看護協会 6. 今後の看護の展望 : グループワーク	予習: (1) テキスト第8章(P216~219)を読んで整理しておくこと。 (2) 今後の看護の展望について自己の考えをまとめて、次回のグループワークに備えておくこと。(90分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。(60分)				
8	6. 今後の看護の展望 : グループワーク 7. 発表 8. まとめ	予習: 前回のグループワークを通して自己の考えを整理しておくこと。(60分) 復習: グループワーク、まとめを振り返り、復習しておくこと。(90分)				
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫			
①: PBL(課題解決型学習)						
②: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)						
③: ディスカッション・ディベート						
④: グループワーク		○				
⑤: プレゼンテーション		○				

⑥:実習・フィールドワーク

【課題のフィードバック】

・課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義で行う。

【成績の評価方法】

- ・グループワーク(10%)、レポート(30%)、筆記試験(60%)
- ・グループワーク評価基準:積極的に議論に参加している姿勢がみられる・相手の意見を否定せず聴く姿勢で臨んでいる・自分の意見、考えを相手にわかってもらえるように発言している・建設的な意見を述べている・目標達成に向けて努力している・発表時のプレゼンテーションはわかりやすい工夫がみられるなど、自己評価・他者評価を含めて評価する。
- ・レポート評価基準:適切な課題が設定されている・課題に沿った内容である・設定した問題の背景を説明している・既存の学説を踏まえうえて自分の考えを述べている・レポート形式で記載している・文章表現が適切である等を評価する。
- ・提出方法・提出〆切については授業時に提示する。期日を厳守すること。提出遅延時は減点対象とする。

【履修申請上の条件】

・予習・復習を確実にし、授業を受けること。

【教科書】

・吉田千文他編集:ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践①看護管理, メディカ出版, 2020.第4版

【参考書】

- ・看護六法, 新日本法規, 最新版
- ・手島恵他編集:看護管理学 自律し協働する専門職の看護マネジメントスキル, 南江堂, 2015.
- ・上泉和子他編集:系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践①, 医学書院2020. 第10版
- ・矢野正子編集:新体系 看護学全書<別巻>看護管理 看護研究 看護制度, メヂカルフレンド社.

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

看護師及び看護管理者としての臨床経験をもとに、実践例を示しながら看護行政の基礎、看護の今後の展望について教授する。

【オフィスアワー】

月曜日～金曜日 9時～17時 メールでの相談対応 出張中など当日対応できない場合は翌日対応する。その旨を説明しておく。

【教員連絡先】

【備考】

- ・各回でわからない言葉については予め調べて授業にのぞむこと。
- ・授業は、講義とグループワークを組み込みながら進めていく。グループ活動を通して、自己の考えを表現すること、他者の意見を聴くこと、主体的に行動することなど、チーム活動をする上での基本的な能力を学ぶ機会になることを期待している。
- ・看護専門職としての自覚と備えるべき姿勢、能力についても考える機会となることを期待している。

授業科目名	看護論	担当教員名	上谷いつ子・山本君子・専任教員	
コード	19NAD408	区分 (必修・選択)	必修	
年次/期間	4年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義	
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】			
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。			
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。			
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。			
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。			
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。			
【授業の概要】				
先達者たちがこれまでに築き上げてきた多くの看護理論の中から、看護現場で活用されている理論(ニード論、セルフケア理論、適応理論など)をいくつか取りあげ、その理論の源泉や看護現象のとらえ方、人間観などを学ぶ。また、これまでの実習体験を経験として自己の中に価値づけていくために、理論と照らし合わせながら看護に対する考えを自分の言葉で表現し、自己の価値観を構築していく。				
各領域の看護学については、基礎看護学領域をはじめ、それぞれの専門看護学領域における既習の知識についてあらためて学習し、専門職である看護師としての資格を得るために必要な知識・技術・態度について確認する。				
さらに、他大学(聖マリアンナ医科大学・昭和薬科大学)と合同の多職種連携セミナーの受講をとおして、医療における多職種連携・協働およびチーム医療の意義について学び、多職種連携における各専門職の役割理解、チームワークおよび情報共有の重要性等について理解を深めるとともに、連携協働における看護職の役割について考察する。				
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】				ディプロマ・ポリシー
				①
				②
				③
				④
				⑤
1	自身の実習体験を看護理論と関連付けて考察できる。			
2	看護の理論を実践に応用することの意味について説明できる。			
3	各領域の看護の展開に必要な知識・技術・態度について述べるができる。			
4	医療における多職種連携協働およびチーム医療の意義について説明できる。			
5	多職種連携協働における看護職の役割について考察できる。			
【授業計画】				
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)		
1	ガイダンス 授業構成・回数、終了試験等について (上谷) 看護理論の理解と活用 1-①② 1. 看護理論の定義と発達背景 2. 看護理論の実践への活用	予習(60分): ①事前に配布する資料を熟読し、整理しておく。 ②実習体験の中から一事例を選び、整理しておく。 復習(60分): ①授業内容を振り返り、整理する。 ②看護理論(大理論もしくは中範囲理論)の認知度・関心度調査 ③ワークシートに自身の体験を整理する。 *毎回の講義終了後は、Google Formでリフレクションシートの記入		
2	代表的な看護理論と活用 (上谷) ワーク 2-①② ワークシートを用いて自身の実習体験を整理し、看護の経験知を表現する。 個人ワーク⇒シェア(少人数)⇒個人ワーク	予習(60分):自分の実習体験と理論を関連付けて整理する。 復習(120分): ①グループワークでの気づきを整理する。 ②所定のワークシートに実習体験を整理し、レポートして提出する。 ③看護実践における看護理論の活用について、自己の考えを整理しレポートする。 なお、提出様式、〆切については、授業時提示する。Google Classroom		
3	多職種連携教育 (山本・上谷・専任教員) 1. ガイダンス 【詳細は実施要項参照】 1) 実施要項の説明・シナリオについて 2) 事前学習について 2. 多職種連携セミナー: 聖マリアンナ医科大学、昭和薬科大学、東京純心大学の3大学合同セミナー開催(9/10) 1) 方法: 3職種混合のグループ編成、グループディスカッション・発表準備・発表 2) シナリオをもとに、課題を抽出し、互いに意見を出し合い議論する。 3) 合意形成のプロセスを丁寧なふみながら、チームで課題解決に取り組む。	予習(90分): ・実施要項を熟読し、セミナー当日のディスカッションを効果的に行うための準備を行う。 ①シナリオをもとに、疾患、病態生理、検査、治療(特に薬剤)、看護について整理する。 ②シナリオを熟読し課題及び課題解決について自分の考えを整理しておく。 復習(60分) ・リフレクションを行う。 ①セミナー終了時のアンケート(Google Form)を記入する(Google Classroom) ②ワーク全体を振り返り、気づき・学びをレポートする。 テーマ、レポートの様式、提出方法、〆切等については、ガイダンス時に提示する。		
4	看護の理論と実践① (本田・天野) 看護の基礎・基礎看護学領域における看護の実践と理論	予習(90分): 専門基礎・基礎看護学領域の看護の知識を再学習し、整理しておく。 復習(90分): 授業内容を整理する。		
5	看護の理論と実践② (小濱) 成人看護学領域における看護の実践と理論	予習(90分): 成人看護学領域の看護の知識を再学習し、整理しておく。 復習(90分): 授業内容を整理する。		
6	看護の理論と実践③ (? ・荻原) 母性看護学領域における看護の実践と理論 小児看護学領域における看護の実践と理論	予習(90分): 母性看護学・小児看護学領域の看護の知識を再学習し、整理しておく。 復習(90分): 授業内容を整理する。		
7	看護の理論と実践④ (戸塚・山川) 地域・在宅看護学領域における看護の実践と理論 精神保健看護学領域における看護の実践と理論	予習(90分): 地域在宅看護学・精神保健看護学の看護の知識を再学習し、整理しておく。 復習(90分): 授業内容を整理する。		
8	看護の理論と実践⑤ (塚本) 高齢者看護学領域における看護の実践と理論	予習(90分): 高齢者看護学の看護の知識を再学習し、整理しておく。 復習(90分): 授業内容を整理する。		
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫	
①:PBL(課題解決型学習)		○	・多職種連携セミナー	
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			①聖マリアンナ医科大学、昭和薬科大学、東京純心大学の3大学合同セミナーを開催する。	
③:ディスカッション・ディベート		○	②医師、薬剤師、看護師の専門職として連携協働のプロセスを体験する	
④:グループワーク		○	③シナリオを事前に配布し、課題解決について自身の考えを整理し、セミナーに臨む。	
⑤:プレゼンテーション				

<p>⑥:実習・フィールドワーク</p> <p>【課題のフィードバック】 課題のフィードバックは、授業内で行う。 毎回の講義終了後のリフレクションシート(Google Form)の質問には、次回の授業もしくはGoogle Classroomで個別もしくは全体にフィードバックする。</p> <p>【成績の評価方法】 筆記試験(90%)、レポート(5%)、グループワーク(5%)による総合評価とする。 目標1・2 ……グループワーク参加状況・レポート評価 目標3 …… 筆記試験 目標4・5 …… グループワーク参加状況・レポート評価</p> <p>【筆記試験】 ・各領域から出題する。出題範囲・問題数等については授業時に示す。</p> <p>【レポート評価基準(ループリック評価)】 ・評価項目:①課題に沿ったタイトルの設定、②内容の一貫性・論理性・わかりやすい表現、③設定した問題の背景の説明、④文献の引用等による考察の深まり、⑤文章の体裁・適切な表現(段落、句読点、主部と述部、文体、誤字・脱字、指定様式等)、などの項目について自己・他者評価を含めて評価する。 ・提出期日の厳守。提出遅延時は減点対象とする。 ・剽窃行為は禁止、評価対象外とする。</p> <p>【グループ・ワーク評価(ループリック評価)】 ・評価項目:①建設的議論、②メンバーへの参加促進、③積極的参加・課題達成への貢献度、④協調性・雰囲気づくり、などの項目について自己・他者評価を含めて評価する。</p> <p>【履修申請上の条件】 特になし</p> <p>【教科書】 ・適宜、資料を配布する。 ・指定図書を事前に提示する。</p> <p>【参考書】 ・黒田裕子監修:ケースを通してやさしく学ぶ看護理論, 日総研, 2012. ・野嶋佐由美編集:看護学の概念と理論的基盤、日本看護協会出版会、2012. ・黒田裕子監修:看護診断のためのよくわかる中範囲理論、学研、2014 ・野川道子編著:看護実践に活かす中範囲理論、メヂカルフレンド社、2014. ・F. ナイチンゲール、湯槇ます他訳:看護覚え書ー看護であること・ないこと、現代社。 ・ヘンダーソン著、湯槇ます・小玉香津子訳:看護の基本となるもの、日本看護協会出版。 ・陣田泰子:看護現場学の方法と成果ーいのちの学びのマネジメント、医学書院、2009。 ・細田満和子:「チーム医療」とは何かー医療ケアに生かす社会学からのアプローチ、日本看護協会出版会、2012。 ・篠田道子著:多職種連携を高める チームマネジメントの知識とスキル、医学書院、2011。 ・エイミー・C・エドモンドソン(著), Amy C. Edmondson(著), 野津 智子(翻訳):チームが機能するとはどういうことかー「学習力」と「実行力」を高める実践アプローチ, 2014。 ・その他:各領域のテキスト、資料等</p> <p>【オープンな教育リソース】 特になし</p> <p>【担当教員の実務経験】 看護師として臨床経験がある教員が、看護理論の知識や実践への活用、および各領域の看護実践の知識、技術について教授する。また、医師、薬剤師、看護師の専門職としてチーム医療、多職種連携協働の経験がある教員が多職種連携セミナーでのファシリテーターとして指導する。</p> <p>【オフィスアワー】 火曜日3限・4限、木3限・4限、昼休み Gmailでの問合せ可能</p> <p>【教員連絡先】 iuetani@t-junshin.ac.jp</p> <p>【備考】 本校は看護学専攻のみの学部であり、看護実践に看護理論を応用していくための学びの場を身に付ける機会となることを期待する。また、看護専門職として活躍する看護士主体の知識の獲得も期待する機会としたい。 多職種連携セミナーは、今年度からあらたに始まったプログラムである。医師、薬剤師を目指している学生とともにディスカッションする体験を通して、看護職としての将来像を描く機会となることを期待している。</p>	
---	--

看護学部

授業科目名	看護教育論	担当教員名	上谷 いつ子・伊藤 菜穂		
コード	19NAD409	区分 (必修・選択)	選択必修		
年次/期間	4年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義		
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】				
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。				
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。				
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。				
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。				
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。				
【授業の概要】					
<p>わが国における看護教育制度および看護継続教育の変遷と現状、及び法的基盤について理解する。 また、諸外国の看護教育制度との比較から、現在の日本における看護教育制度の特徴と課題についてディスカッションを通して理解を深め、社会から求められている看護学教育について考察する。 看護学教育や継続教育に応用できる学習理論・学習方法について、体験的に理解を深め、基礎教育課程での学びを踏まえ、自身の看護実践能力を高めていくために必要な自己研鑽力について検討する。 さらに、これまで受けてきた講義や演習、実習を振り返り、看護学を学ぶ意義について再認識し、看護専門職として生涯学習の意義とキャリア開発、今後の展望について考察する。</p>					
				ディプロマ・ポリシー	
				①	②
				③	④
				⑤	⑥
1	看護学を学ぶ意義について説明できる				○
2	日本における看護教育制度の特徴と課題について説明できる。				○
3	看護継続教育の現状と課題について説明できる				○
4	継続教育に関連する学習理論を踏まえ、自身の学習経験を振り返ることができる				○
5	看護専門職として生涯学習の意義とキャリア開発の展望について考察できる。			○	○
【授業計画】					
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	<p>看護学を学ぶ意味とは (上谷)</p> <p>1. いま・これから求められる医療・看護、看護教育とは 2. 看護教育学とは 3. 生涯学習社会を生きるとは</p>	<p>予習(60分): ①参考図書・文献等を参照し、教育は人にとってなぜ大切なのか、看護と教育の共通性を考え、その意味を整理する。 ②現代社会において生涯学習が重要な理由について調べてまとめておく。 ③北海道大学オープンコースウェアhttps://ocw.hokudai.ac.jp/?s=field06 にアクセスし、スタディスキル自習用補助教材の「プレゼンテーションの“技法”基礎編(6分)」「レポート作成の基本」(7分)を視聴し、自身のこれまでのプレゼンテーションやレポート作成について振り返りをしておく。 復習(60分):授業内容を振り返り、ノートに整理する。看護を学ぶ自身にとって将来どのような場面で教えることになるのか具体的にイメージして整理する。 *毎回の講義終了後は、Google Formでリフレクションシートの記入、随時課題配信・課題は授業時持参のこと</p>			
2	<p>看護教育制度 ① (伊藤・上谷)</p> <p>1. 日本の看護教育制度の変遷 2. 看護基礎教育の現状と課題 グループワーク:「諸外国の看護教育制度:日本との比較」</p>	<p>予習(60分):指定された諸外国の看護教育制度について、配布資料や文献、インターネット等で調べ、所定の用紙に整理する。講義時に持参する(グループワーク時に使用) 復習(60分): ①授業内容やグループワークを振り返り、内容を整理する。 ②看護教育上の決められたテーマについて、日本と海外諸国を比較し、自己の考えをまとめる(A4用紙)。</p>			
3	<p>看護教育制度 ② (伊藤・上谷)</p> <p>1. 保助看法と看護教育 2. 准看護制度</p>	<p>予習(60分): ①参考図書・文献等の中から、保助看法がどのような法律であるか、准看護師制度について、調べてまとめておく。 復習(60分): ①准看護師制度について授業で考えたことをもとに、文献等を調べ自分の意見をまとめる。</p>			
4	<p>看護継続教育 ① (上谷)</p> <p>1. 看護専門職への道 2. 看護継続教育の現状と課題</p>	<p>予習(60分): ①参考図書や文献の中から、専門職の要件、看護継続教育の現状について整理しておく。 復習(60分): ①授業内容を振り返り、看護専門職として”学び続ける”ことの責務について、自分の考えをまとめる。</p>			
5	<p>看護継続教育 ② (上谷)</p> <p>1. 看護実践能力と自己研鑽力 2. 看護のプロフェッショナルへの道 新人看護職の特徴とその支援のあり方 2年目・3年目・中堅看護師等の特徴</p>	<p>予習(90分): ①看護基礎教育課程における学びを踏まえ、自身の看護実践能力について振り返る。 ②日本看護協会のHP(https://www.nurse.or.jp/) にアクセスし、「生涯学習支援 →看護師のクリニカルラダー、新人看護職研修、継続教育の基準Ver.2、特定行為研修、認定看護師教育等」について調べまとめておく。 復習(60分): ①授業内容を振り返り、看護実践能力は実践を重ねる中でどのように発展していくのかについて考えを整理する。 ②新人の特徴を知り、第一歩を踏み出すためのイメージを膨らませ、その内容を記述する。</p>			
6	<p>看護師の学習とキャリア開発 (上谷)</p> <p>1. 看護師の学習の特徴 2. 看護師のキャリア開発と課題 グループワーク:～自分史を描こう! キャリア・ビジョンを表現しよう!～</p>	<p>予習(60分):参考図書・文献等の中から、看護師としての学習の特徴、キャリア開発に向けた学習についてまとめておく。 復習(60分):看護師としてどのようなキャリアを積んでいきたいか所定の用紙に整理する。</p>			
7	<p>看護と学習理論 ～看護学独自の体験学習とは～ (上谷)</p> <p>1. 学習理論の変遷 2. 成人学習と経験学習 3. 省察的実践</p>	<p>予習(60分): ①参考図書や文献等の中から、学習理論、成人学習、経験学習、省察的実践について調べ、まとめておく。 復習(60分): ①授業内容を振り返り、臨地実習での体験を看護の知恵として、看護実践に活用していくためには、どのような方法があるのか、について整理する。 ② ①を踏まえ、看護学独自の体験学習について整理し、自身の考えをまとめる。</p>			

8	看護と学習理論 (上谷) 1. 学習意欲を高める技法 ロールプレイ:後輩への関わり方 2. ディスカッションの技法 ”コンセンサスゲーム” グループワーク まとめ 最終レポート課題	予習(60分): ①参考図書や文献等の中から、動機づけ理論、学習意欲、ディスカッションの技法等、重要なキーワードを整理しておく。 ②コンセンサスゲームの体験学習を通して、ディスカッションにおける自己の参加状況について振り返る。 復習(60分): ①看護の現場においてどのような指導者をめざしたいか、そのために身につけたい能力とはなにか、自己の考えを整理する。 ②専門職としての看護師に求められる学習者としての姿勢と今後の展望について、自己の考えを整理する。 【最終レポート課題】(180分) テーマ、提出方法・期限等は授業時に提示する。
【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		「アイスブレイク」を学生主導で体験
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
課題のフィードバックは、授業内で行う。 毎回の講義終了後のリフレクションシート(Google Form)の質問には、次回の授業もしくはGoogle Crass Roomで個別もしくは全体にフィードバックする。		
【成績の評価方法】		
レポート(70%)、GW参加状況・提出物(30%)で、総合的に評価する。 目標1、2、3:事前課題、授業後のレポートをルーブリック評価(自己・他者評価) 目標4、5:レポート、グループディスカッションをルーブリック評価(自己・他者評価)		
【レポート評価基準(ルーブリック評価)】		
・評価項目:①課題に沿ったタイトルの設定、②内容の一貫性・論理性・わかりやすい表現、③設定した問題の背景の説明、④文献の引用等による考察の深まり、⑤文章の体裁・適切な表現(段落、句読点、主部と述部、文体、誤字・脱字、指定様式等)、などの項目について自己・他者評価を含めて評価する。 ・提出期日の厳守。提出遅延時は減点対象とする。 ・剽窃行為は禁止、評価対象外とする。		
【グループ・ワーク評価(ルーブリック評価)】		
・評価項目:①建設的議論、②メンバーへの参加促進、③積極的参加・課題達成への貢献度、④協調性・雰囲気づくり、などの項目について自己・他者評価を含めて評価する。		
【履修申請上の条件】		
これまで学んだ専門領域看護の知識、領域実習での患者・家族指導の経験などを想起しながら、講義に臨むこと。		
【教科書】		
特に指定しない。講義時に資料を配布する。		
【参考書】		
グレグ美鈴,池西悦子編集,看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う,改訂第2版,南江堂,2019. 杉森みどりほか:看護教育学第6版,医学書院,2017. 中井俊樹ほか:看護のための教育学,医学書院,2017. 中井俊樹編著:看護現場で使える教育学の理論と技法,メディカ出版,2017. エドガーH.シャイン著,金井嘉宏訳:キャリア・アンカー,自分のほんとうの価値を発見しよう,白桃書房,2012. 鈴木正幸:「知る」から「わかる」へ教育,メヂカルフレンド社,1995. バトリシア・ベナー著,井部俊子監訳:ベナーの看護論新訳版,初心者から達人へ,医学書院,2012. 勝原裕美子:看護師のキャリア論,ライフサポート社,2012. 吉田みつ子:看護技術—ナラティブが教えてくれたこと,医学書院,2014. 青木将幸:リラックスと集中を一瞬でつくるアイスブレイクベスト50,ほんの森出版,2015. 三浦真琴:グループワークその達人への道,医学書院,2018.		
【オープンな教育リソース】		
北海道大学オープンコースウェア https://ocw.hokudai.ac.jp/?s=field06 にアクセスし、スタディスキル自習用補助教材の「プレゼンテーションの“技法”基礎編(6分)」「レポート作成の基本(7分)」の視聴		
【担当教員の実務経験】		
看護師としての臨床経験のある教員が担当する。臨床現場の患者指導、看護師の現任教育の具体例を示しながら、実践的な視点で教授する。		
【オフィスアワー】		
火曜日3限・4限、木3限・4限、昼休み Gmailによる問合せ可能		
【教員連絡先】		
iuetani@t-junshin.ac.jp		
【備考】		
授業では、これまで受けてきた看護基礎教育を想起し、ブレインストーミングを多く取り入れるので、積極的に参加することを期待する。 また、看護の専門職を目指すものとして、卒業を前にあらためて看護と教育の意味を問い直すとともに、看護実践能力の向上のための経験学習からの学び方を理解し、卒業後に役立てていけることを期待している。		